

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課	
	施策No.	4	施策名	文化の振興	重点施策		施策主管課長名	本村 成明	
施策関係課名	市民活動推進課、スポーツ・文化振興課、観光課、学校教育課、社会教育課								
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針									
<p>■芸術文化振興については、市民の自発的な文化活動を支援する。また、多様化する市民ニーズに対応した文化活動を推進するとともに、平成27年度に開催される国民文化祭鹿児島大会を契機に、芸術・文化に対する関心をさらに高め、日常生活にゆとりと潤いを感じることのできる文化の薫り高いまちづくりを目指す。</p> <p>■地域や保存団体が主体となって郷土芸能をはじめとする無形文化財を保存・継承するとともに、市民が文化財を学び知る機会を設け、郷土づくりの意識や自発的な保存活動の高まりを促すため、文化財や地域で行っている伝統文化活動を広く周知するための広報活動の強化に努める。また、市内に点在している文化財や埋蔵文化財などの調査を進めるとともに、保存・活用及び整備を図る。</p>									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市民							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	人口	人	見込み値	129,098	129,328	129,558	129,788	129,897	130,000
			実績値	127,475	127,283	126,773	126,962	125,447	
B			見込み値						
			実績値						
C			見込み値						
			実績値						
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		芸術・文化及び文化財に親しむ							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	芸術・文化に親しんでいる市民の割合	%	成り行き値	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0
			目標値	60.0	54.5	55.0	55.5	56.0	56.5
			実績値	59.4	60.6	56.2	54.3	58.8	
			達成率	99%	111%	102%	98%	105%	
			結果	○	◎	○	○	◎	
B	過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数	人	成り行き値	94,000	94,000	94,000	94,000	94,000	94,000
			目標値	94,000	94,500	95,000	95,500	96,000	96,500
			実績値	95,516	103,714	102,783	110,676	101,255	
			達成率	102%	110%	108%	116%	105%	
			結果	○	◎	◎	◎	◎	
C	文化財に親しんでいる市民の割合	%	成り行き値	77.0	77.0	77.0	77.0	77.0	77.0
			目標値	77.0	77.2	77.4	77.6	77.8	78.0
			実績値	76.3	74.8	75.5	74.7	75.3	
			達成率	99%	97%	98%	96%	97%	
			結果	○	○	○	○	○	
D	過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数	人	成り行き値	12,000	12,000	12,000.0	12,000	12,000	12,000
			目標値	12,000	12,200	12,400	12,600	12,800	13,000
			実績値	11,479	13,390	10,430	11,197	10,838	
			達成率	96%	110%	84%	89%	85%	
			結果	○	◎	△	△	△	
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)		⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方							
A 芸術・文化に親しんでいる市民の割合 ※総合計画進行管理に係る市民意識調査		A 芸術鑑賞や美術展、写真展などの公募による発表の場を提供することで、「芸術・文化に親しんでいる市民の割合」については、平成23年度実績値の53.2%から3.3ポイントの成果向上を目指す。							
B 過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数 ※芸術文化団体(文化協会、少年少女合唱団、神楽振興会等)の所属人数及び市民音楽祭、国際音楽祭、美術展、写真展等の鑑賞者数		B 芸術鑑賞や美術展、写真展などの公募による発表の場を提供することで、「過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数」については、平成23年度実績値の94,776人から1,724人の増加を目指す。							
C 文化財に親しんでいる市民の割合 ※総合計画進行管理に係る市民意識調査		C 各種刊行物の発行及び広報誌による文化財の紹介、史跡めぐりなどを通して、文化財にふれたり実践できる環境を整えることで、「文化財に親しんでいる市民の割合」については、平成23年度実績値の77.3%から0.7ポイントの成果向上を目指す。							
D 過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数 ※初午祭、天孫降臨霧島祭、史跡めぐり、山々野ウォーキング等の参加者数及び郷土芸能保存団体の所属人数並びに各郷土館の入場者数		D 各種刊行物の発行及び広報誌による文化財の紹介、史跡めぐりなどを通して、文化財にふれたり実践できる環境を整えることで、「過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数」については、平成23年度実績値の12,012人から988人の増加を目指す。							
		E							
		F							

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 芸術文化活動団体の発表の場の提供や、文化協会などの既存団体との連携を図ることで、それぞれの団体が活発化するように働きかける必要がある。
- 自主文化団体や個人が活発に芸術文化活動ができるように、環境を整備していく必要がある。
- 舞台芸術鑑賞事業等の開催に併せて、専門家(出演者)によるワークショップ(演技指導など)を取り入れるなど、市民が芸術文化にふれるきっかけや関心を持つような取組を展開していく必要がある。また、児童生徒の芸術鑑賞事業については、教育課程内での実施の可能性も含めて検討していく必要がある。
- 優れた芸術作品等にふれる機会を市民に提供していく必要がある。
- 文化財の大切さや重要性を市民に知ってもらう必要がある。
- 年次的に文化財調査を実施し、その調査成果を基に保存・活用していく必要がある。
- 地域の歴史に精通した人材を文化財調査に活用するなど、地元と連携した保護活動を展開していく必要がある。
- 郷土芸能の保存・継承については、学校や自治会を活用するなど、後継者確保の対策を講じる必要がある。また、郷土芸能の活性化を図るため、保存団体の組織化を進める必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■芸術文化に関する鑑賞の場の提供や活動の機会を増やし、芸術文化に親しむ環境づくりに努める。 ■市民に対してふるさとの歴史や文化を知る機会や学ぶ場を提供し、文化財に対する理解を深める。 ■文化財を後世に遺すため、調査・研究・記録保存を行うとともに、環境整備を行う。 ■地域や保存団体と連携して、郷土芸能の継承を推進する。 	<p><市民></p> <ul style="list-style-type: none"> ■知識、教養を高めるために様々な芸術に触れる。 ■文化財を大事にする意識を持つ。 ■連綿と受け継がれてきた伝統文化を家庭や地域ぐるみで守り育てる。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 芸術文化に触れる・学ぶという事に関心のある方と全く関心のない方との二極化が進んでいるように感じられる。
- 求める芸術や文化が多様化し、既存の芸術文化団体の枠に収まらないこと等の理由から芸術文化団体への加入が減少している。
- 近年の急激な都市化や生活様式の欧米化などにより、市民が伝統文化に触れる機会が減少している。
- 古来より連綿と受け継がれてきた郷土芸能や風俗・習慣など、地域文化の核となるような伝統行事の存続が困難な状況にある。
- 文化財に対する愛護精神の低下や開発行為等により、消失する文化財が出てくる恐れがある。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 文化施設(美術館)の整備・充実を図ってもらいたい。
- 芸術文化に関する鑑賞の場や活動のできる環境を整備してもらいたい。
- 伝統文化(郷土芸能・年中行事)の継承活動に要する経費については、行政からの支援が必要である。
- 霧島市の文化財は、その質・量とも豊富であり、これを総合的な見地から保存・整備を進めることが大事である。
- 郷土の歴史・文化に関心を持つ市民が多く、資料の請求や史跡めぐりの開催などの要望が多い。
- ふるさとの歴史や文化財に関する事業の実施などについて、新たな企画を要望されている。

5 施策の現状

① 平成28年度施策の取組方針	② 平成28年度施策の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■国民文化祭が一過性のものとならないよう、市民が芸術文化に興味・関心を持つきっかけづくりに取り組み、市民の文化活動団体への加入促進を図る。 ■郷土の先人が成し得た偉業を市民に広く周知するシンポジウム等を開催し、市民が文化財を学び知る機会を提供する。 ■霧島市民芸保存会連絡協議会のさらなる活性化を図り、郷土芸能の保存継承に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市・市教育委員会・文化協会・市民会館を上げて多種多様な催しを実施したことにより、延べ13,500人の方々に芸術文化に触れる機会を提供することができた。しかしながら、文化団体への加入促進へ繋げるまでには至っていない。 ■天降川川筋直し350年、宮内原用水完成300年記念事業として、シンポジウム、企画展、連続講演会等を実施した。 ■郷土芸能保存会が出演する日程等をまとめた案内チラシを作成し周知を図った。

③ 平成28年度施策の目標値と実績値の比較

目標達成 ◎ 105%以上
 目標をほぼ達成 ○ 95%~105%未満
 目標を未達成 △ 95%未満

平成28年度成果指標				結果
目標値	実績値	達成率		
A	56.0	58.8	105.0%	◎
B	96,000	101,255	105.0%	◎
C	77.8	75.3	96.7%	○
D	12,800	10,838	84.7%	△
E				
F				

④ 平成28年度施策の成果指標の達成状況及び要因

- 「A 芸術・文化に親しんでいる市民の割合」は昨年度と比較して4.5ポイント増加し、目標値を2.8ポイント上回ったことから目標を達成できた。その要因として、合併以前から継続しているイベント等が市民に浸透してきていること、児童生徒への芸術鑑賞機会の増加が考えられる。
- 「B 過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数」は昨年度と比較して9,421人減少したが、目標値を5,255人上回り、目標を達成できた。その要因として、文化協会の文化祭をはじめ、恒例化が進み市民の周知化が影響したことなどが考えられる。
- 「C 文化財に親しんでいる市民の割合」は昨年度と比較して0.6ポイント上回り、目標値を2.5ポイント下回ったが目標をほぼ達成した。その要因として、文化財に関する看板などの整備に取り組んだことが考えられる。
- 「D 過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数」は、昨年度と比較して359人減少しており、目標値を1,962人下回ったことから目標を達成できなかった。その要因として、天候の影響や郷土館等入館者の減少などが考えられる。

⑤ 基本事業の

目標達成度

(平成28年度目標と実績との比較)

○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成

① 芸術文化活動のきっかけづくり	○	⑤
② 文化関係団体の育成	△	⑥
③ 文化財の保存・整備	△	⑦
④ 文化財の活用	×	⑧

6 平成29年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)

- 芸術文化団体や霧島市民芸保存会連絡協議会の活動を活発化するために、必要な支援並びに環境の整備に取り組む。
- 市民が芸術文化に関心を持ってもらうために、より工夫を凝らした取組を展開していく。
- 文化財を適切に保存・整備していくために、年次的な文化財調査を実施し、その調査結果をもとに文化財の活用に取り組む。
- 文化財の大切さや重要性を市民に認識してもらうために、「西南の役140年記念事業」等を活用して、市民に周知する。

7 平成30年度に向けた施策の課題・方向性

- 現存する芸術文化団体の高齢化と若者離れが顕著であり、個々の団体の存続が困難になりつつあるため、既定概念に囚われず、芸術文化団体の定義を広く解釈するなど内部改革も必要であると考え。
- 文化財を適切に保存・整備していくために、年次的に修繕・養生を実施するとともに、種別毎に計画性を持って文化財調査を実施し、その成果をもとに文化財の活用に取り組む。
- 文化財の大切さや重要性を市民に認識してもらうために、「明治維新150年記念事業」等を活用して、市民に周知する。

基本事業No.	4-4-1	基本事業名	芸術文化活動のきっかけづくり	基本事業 主担当課	スポーツ・文化振興課
---------	-------	-------	----------------	--------------	------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
平成27年度に開催される第30回国民文化祭鹿兒島大会などを通して、芸術文化活動に取り組むきっかけとなる各種事業を展開する。	
②対象	市民
③意図	芸術文化活動に取り組むきっかけが得られる

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	きっかけづくりの活動に参加した延べ人数	人	市が行ったきっかけづくりの活動実績	成り行き値	89,000	88,000	87,000	86,000	85,000	84,000
				目標値	90,500	91,000	91,500	92,000	92,500	93,000
				実績値	90,368	99,276	99,305	104,524	96,404	
				達成率	100%	109%	109%	114%	104%	
				結果	○	◎	◎	◎	○	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A	過去3年間の実績値で最も高い平成21年度の92,930人を超えることを目標とした。
---	---

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■多くの市民が芸術文化活動に取り組むきっかけとなるよう、各種文化事業等の情報発信に努める。 ■小中学校での芸術鑑賞機会の充実を図り、児童生徒に優れた芸術文化に触れる機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民会館での自主文化事業として音楽・演劇・ミュージカルなどの事業を選択し、延べ4,000人の方々に観覧いただいた。また、美術展やフォトコンテストには9,500人以上の方々が鑑賞に訪れた。 ■児童生徒の鑑賞機会としては、小学6年生全員を対象とした「こころの劇場」をはじめ、小学校9校、中学校10校で音楽・バレエ・狂言・パントマイムなどの芸術鑑賞を行った。
---	--

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A	「きっかけづくりの活動に参加した延べ人数」は昨年度と比較して8,120人減少したが、目標値を3,904人上回り目標を達成できた。実績の約96,400人のうち、特に市民会館で開催された各種イベント等に延べ64,000人が訪れていただき、中でも昨年の国民文化祭を引き継いだ分野別フェスタ「和太鼓の祭典」には1,000人を超える方にご来場いただいた。また毎年夏に行われる「霧島国際音楽祭」に17,500人、美術展・フォトコンテストに9,700人、その他、児童生徒芸術鑑賞会に5,200人など、継続してきたイベントの浸透がその主な要因であると考えられる。
---	---

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■さらに多くの市民が芸術文化活動に取り組むきっかけとなるよう、特色のある事業を展開していく。 ■児童生徒に対し、優れた芸術文化に触れる機会の充実を図る。 	多様化する市民ニーズを把握する方策の研究とそのニーズにあったプログラムの採択が必要である。
---	---

基本事業No.	4-4-2	基本事業名	文化関係団体の育成	基本事業 主担当課	スポーツ・文化振興課 社会教育課
---------	-------	-------	-----------	--------------	---------------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
<ul style="list-style-type: none"> ■市民による自発的な芸術文化活動が積極的に行われるように支援する。 ■郷土芸能保存会の相互連携や活動しやすい環境づくりのため、「(仮称)霧島市郷土芸能保存協会」の結成を目指す。 	
②対象	<ul style="list-style-type: none"> ・市民 ・芸術文化活動を行っている団体 ・郷土芸能を継承している団体
③意図	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化活動を通じ、親睦や交流が図られ、団体が活性化する ・郷土芸能を継承し広める

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	220	215	210	205	200
A 芸術文化団体の団体数	団体	活動団体の活動実績	目標値	224	224	224	224	224	224
			実績値	221	220	189	185	184	
			達成率	99%	98%	84%	83%	82%	
			結果	○	○	△	△	△	
B 芸術文化団体に所属している人の数	人	活動団体の活動実績	成り行き値	3,500	3,400	3,300	3,200	3,100	3,000
			目標値	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
			実績値	3,414	3,219	3,128	2,932	2,992	
			達成率	95%	89%	87%	81%	83%	
C 郷土芸能保存会の団体数	団体	活動団体の活動実績	成り行き値	39	38	37	36	35	34
			目標値	40	40	40	40	40	40
			実績値	32	34	36	37	37	
			達成率	80%	85%	90%	93%	93%	
D 郷土芸能保存会に所属している人の数	人	活動団体の活動実績	成り行き値	2,500	2,450	2,400	2,350	2,300	2,250
			目標値	2,550	2,550	2,550	2,550	2,550	2,550
			実績値	2,398	2,582	2,708	2,667	2,770	
			達成率	94%	101%	106%	105%	109%	
			結果	△	○	◎	◎	◎	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の224団体を維持することとした。
B 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の3,614人の水準を維持することとした。
C 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の40団体を維持することとした。
D 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の2,556人の水準を維持することとした。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■文化協会所属団体の活動内容を広く市民に周知し、既存団体への新規加入者の促進を図る。 ■霧島市民芸保存会連絡協議会において、各団体が抱える問題について検討するとともに相互の情報共有化を図り、各団体の活動の活性化に寄与する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■文化協会が主催するイベントや講演会について、広く市民に告知すると共に各支部で団体加入について推進してきたが、加入促進には思うようには繋がっていない。 ■霧島市民芸保存会連絡協議会において、連絡会や理事会を開催し、保存団体の現状を把握し、それぞれの問題を提起することによって保存団体の継承の意識が向上された。また、郷土芸能を周知するため活動チラシの作成やホームページによって保存団体の活動を紹介した。
--	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

<ul style="list-style-type: none"> ■「A 芸術文化団体の団体数」及び「B 芸術文化団体に所属している人の数」は目標値をそれぞれ下回っており、目標を達成できなかった。その要因として、会員の高齢化等の理由により解散や退会が進んでいることが考えられる。 ■「C 郷土芸能保存会の団体数」は、昨年度と同数だが目標値を3団体下回っており、目標を達成できなかった。その要因として、休止団体の復活ができなかったことがあげられる。 ■「D 郷土芸能保存会に所属している人の数」は昨年度と比較して若干増加しており、目標値を220人上回ったことから目標を達成できた。その要因として、発表の場の増加に伴い保存会の活性化と青少年を含む後継者の育成(勧誘)が進み、会員が増えたことが考えられる。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■市民による芸術文化活動が積極的に行われるように、必要な支援をしていく。 ■郷土芸能の保存・継承のために、霧島市民芸保存会連絡協議会の充実を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■芸術文化団体の活性化を図るため、文化協会加入のメリットを明確化するとともに可能な限り拡大するなど、その加入促進を図る方策を充実させる。 ■民芸保存会を後世に残すための後継者育成や保存団体間の交流の促進、発表の場の充実を図る。
---	--

基本事業No.	4-4-3	基本事業名	文化財の保存・整備	基本事業 主担当課	社会教育課
---------	-------	-------	-----------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）
文化財を後世に遺すため、年次的に調査を実施するとともに、その成果の周知を図る。また、史跡等の環境整備や看板設置を進める。

②対象	文化財	③意図	適切に保存され後世に遺す
-----	-----	-----	--------------

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	指定文化財の数	件	文化振興課で管理する文化財台帳 (数は累計)	成り行き値	123	123	123	123	123	123
				目標値	124	125	125	126	126	127
				実績値	124	125	126	126	125	
				達成率	100%	100%	101%	100%	99%	
				結果	○	○	○	○	○	
B	周知の埋蔵文化財包蔵地の数	件	文化振興課で管理する文化財台帳 (数は累計)	成り行き値	523	523	523	523	523	523
				目標値	523	523	523	523	523	523
				実績値	523	523	530	530	531	
				達成率	100%	100%	101%	101%	102%	
				結果	○	○	○	○	○	
C	整備している文化財の数	件	文化振興課で管理する文化財台帳 (数は累計)	成り行き値	154	154	154	154	154	154
				目標値	156	159	160	162	164	166
				実績値	158	166	167	176	177	
				達成率	101%	104%	104%	109%	108%	
				結果	○	○	○	◎	◎	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 貴重な文化財については、調査を実施し、平成29年度までに127件の指定を目指す。
 B 文化財保護の基本理念は、現存する文化財を後世に引き継ぐことであるので、平成23年度実績値である523件の維持を目標とする。
 C 文化財の整備については、調査報告書を含め、平成29年度までに166件を目指す。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■「大隅正八幡宮境内及び社家跡」の保存管理計画に対する市民の周知を図り、当該計画に沿った適切な保存・整備に努める。 ■周知の埋蔵文化財包蔵地や指定地内における開発行為(民間・公共)について、事前協議してもらうよう広報に努める。 ■劣化が進む石造物について調査研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「大隅正八幡宮境内及び社家跡」の沢氏館跡の遺構確認のための発掘調査を実施し、石造物の調査については現地確認のみに留めた。 ■周知の埋蔵文化財包蔵地や指定地区内における開発行為に対し、適切な指導を行った。 ■県指定「福山のイチョウ」の養生及び県指定「旧田中家別邸」の修復を行った。
---	--

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

- 「A 指定文化財の数」は昨年度と比較して1件減少しており、目標値に対して99%の達成率となった。その要因として、福山の小みかんが枯死したため指定解除を行ったためである。
- 「B 周知の埋蔵文化財包蔵地の数」は昨年度と比較して1件増加しており、目標値を7件上回ったことから目標を達成できた。その要因として、現地調査をおこない新たに遺跡を発見したためである。
- 「C 整備している文化財の数」は、昨年度と比較して1件増加し、目標値を13件上回ったことから目標を達成できた。その要因として、計画的に案内看板などの整備を進めてきたことによるものである。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■文化財を適切に保存・整備していくために、年次的に文化財調査を実施していくとともに文化財に対する周知を図る。 ■文化財保存に対する市民の意識を高めるために、文化財の環境整備や看板設置を計画的に進める。特に平成29年度は、西南の役が起きて140年の節目の年であることから、西南の役に関係する史跡を中心に看板設置等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■文化財を適切に保存・整備していくために、年次的に文化財調査を実施していくとともに文化財に対する周知を図る。 ■文化財保存に対する市民の意識を高めるために、文化財の環境整備や看板設置を計画的に進める。特に平成30年度は、明治維新150年という節目の年であることから、明治維新に関係する史跡を中心に看板設置等を進める。
--	---

基本事業No.	4-4-4	基本事業名	文化財の活用	基本事業 主担当課	社会教育課
---------	-------	-------	--------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
史跡めぐりなどの実施や、郷土館等で魅力ある特別展や各種イベントを開催することにより、郷土の歴史に対する市民の興味・関心を高める。	
②対象	市民
③意図	文化財を学び郷土の歴史を正しく理解する

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	郷土の歴史を学んだ市民の数	人	文化財の学習活動や郷土館などの延べ参加(利用者)者数	成り行き値	8,600	8,650	8,700	8,750	8,800	8,850
				目標値	8,700	8,800	8,900	9,000	9,100	9,200
				実績値	8,323	9,006	6,930	8,529	7,790	
				達成率	96%	102%	78%	95%	86%	
				結果	○	○	△	○	△	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 市内史跡めぐりや講演会、特別展の開催など、学ぶ機会を提供し、毎年100人ずつ郷土の歴史を学んだ市民の数を増やすことを目指す。
--

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■文化財にこれまで関心をもっていない市民を、一人でも多く「きりしま歴史散歩」や「郷土館めぐり」などの各種事業に取り込むために、事業のさらなる工夫、改善を図る。 ■「天降川川筋直し」から350年目を迎えることから、防災なども含む多角的視点のイベントを開催する。 ■石造物などの継続的な調査を実施し、資料の蓄積を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■郷土館における企画展「止上神社」「天降川川筋直し350年、宮内原用水完成300年」や郷土館めぐり、体験学習等を実施した。 ■天降川川筋直し並びに宮内原用水に関するシンポジウム、講演会、歴史散歩等を行った。 ■石造物の調査については現地確認のみに留めた。
---	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

<ul style="list-style-type: none"> ■「A 郷土の歴史を学んだ市民の数」は、昨年度と比較して739人減少し、目標値を1,310人下回ったことから目標を達成できなかった。その要因として、郷土館等の入館者が減少したことが考えられる。
--

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■郷土の歴史に対する市民の関心を高めるために、より工夫を凝らしたイベント等を実施していく。特に本年は「西南の役140年記念事業」等を活用して、市民に周知する。 ■石造物などについて引き続き調査を行い、その結果を記録としてまとめ保存・活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■郷土の歴史に対する市民の関心を高めるために、より工夫を凝らしたイベント等を実施していく。特に、平成30年度は「明治維新150年記念事業」等を活用して、市民に周知する。 ■石造物・神社などについて引き続き調査を行い、その結果を記録としてまとめ保存・活用していく。
--	--